

日本洞窟学会第45回大会(和歌山県白崎大会)大会記録

長谷川幸祐 (HASEGAWA, Yukihiro 日本洞窟学会大会記録委員会・カマネコ探険隊所属 東京都在住)

1. はじめに

2019年(令和元年)度の日本洞窟学会大会が11月15日(金)～17日(日)に、大会として初めて和歌山県日高郡由良町にて開催され、37名の参加者がありました。天候にも恵まれたこの大会の内容を大会記録委員よりご報告させていただきます。参加された方はこの記録にて当日のことを思い出していただき、また参加できなかった会員の皆様には、今大会の雰囲気を感じていただければ幸いです。

日程： 2019年11月15日(金)～17日(日)
会場： 和歌山県日高郡由良町大弓961-1
和歌山県立白崎青少年の家
主催： 日本洞窟学会(学会長：後藤 聡)
後援： 和歌山県日高郡由良町
実行委員長：後藤 聡(東京スペレオクラブ)

2. 開催にあたっての挨拶(大会実行委員会)

2019年(令和元年)度の本大会は、和歌山県南西部の白崎半島を有する由良町で、簡単な巡検を伴う学術講演会として開催することになりました。

紀伊半島の南西部、紀州。梅・柿・ミカンや温泉、那智の滝や世界遺産熊野古道でも有名な和歌山県です。石灰岩は和歌山県の北部を横切る中央構造線と中部の仏像構造線に挟まれた地域に、秩父帯の古生代石灰岩や中生代鳥の巣式石灰岩として点在しています。これらは、

遠く愛知県から伊勢湾を挟んで三重県、そして奈良県河川から和歌山までブロック状に続いています。その南西端、太平洋に接するのが白崎半島。海に飛び出した島のような岬が全部、石灰岩です。

明治の頃から盛んに石灰石の採掘が行われ、本来のカルスト地形は失われているのかもしれませんが。現在は廃鉱となり、その跡地は県立公園に指定され、白崎海洋公園として道の駅もできるほど。「夕日100選」や「日本の渚百選」にも選ばれています。新日本歩く道紀行100選では「絶景の道」とか。

自然洞が残る巨大な坑道を抜けて、ドリーネや、カレンフェルトの見られる白崎のてっぺんから太平洋を望む。その白い石灰岩と青い空と海のコントラストが、とても気持ち良いカルストエリアです。この機会に、是非訪れて、見て、感動して下さい。

なお、半島内には石灰洞が10本確認されています。洞床が海という洞窟、さらに海に向かってラダーを降りる竪穴もあります。カマドウマではなくフナムシが走り回る洞窟。残念ながら、昔の事故や、去年の台風の影響で、今回は入洞しません。しかし、この日本洞窟学会がきっかけで、県立公園として日本では珍しい海岸のカルストを見学できるよう進むことを願うものです。

石灰洞の観光洞としては、白崎のすぐ近く、同じ由良町内に戸津井鍾乳洞(縦横複合洞、測量時の全長250mが観光化により100mに縮小)があります。

3. 大会日程

月日	時間	内容	会場
11月15日(金)	18:00～	評議委員会	白崎青少年の家 研修室すいせん
11月16日(土)	10:00～	受付	白崎青少年の家
	13:00～	開会式	白崎青少年の家 研修室つばき・あこう
	13:30～	学術講演-I(口頭発表)	
	17:15～	総会	
	19:00～	懇親会	白崎青少年の家 食堂
11月17日(日)	9:00～	学術講演-II(口頭発表)	白崎青少年の家 研修室つばき・あこう
	10:00～	ポスター発表コアタイム	
	11:00～	巡検	戸津井鍾乳洞→白崎海洋公園
	13:00～	閉会式	白崎青少年の家 研修室つばき・あこう

11月16日(土)

・学術講演-I(口頭発表)

今年度の大会は大会初の和歌山県で、県立白崎青少年の家を会場として開催されました(P01、P02)。大会期間中は天候にも恵まれ、11月中旬にしては暖かく、屋内の講演会場ではスライドがやや見づらいと思うほどの日差しが窓から入ってきました。

学術講演は今大会のメイン会場である2階研修室つばき・あこうで行われ、開会式は大会実行委員の水島明夫さんの司会のもと(P03)、後藤聡実行委員長のご挨拶で

始まり(P04)、来賓の由良町産業建設課長上田晃広様、主査福村優希様から祝辞を頂きました(P05)。

次に大会実行委員の須佐見吉生さんより日程説明があり、最後に会場および宿泊施設である白崎青少年の家での注意事項を施設職員の方よりご説明いただきました。スリッパに履き替えることやごみの分別方法、消灯時間等施設内での注意事項やルールをお聞きし、頂いたプリントにはベッドからベッドにとびうつらない等書いてあり、子供の頃の躰を思い出し、なんだか懐かしい気持ちになりました。